

8.8 廃棄物

8.8.1 調査事項

調査事項は、表 8.8-1 に示すとおりである。

表8.8-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
予測条件の状況	・ 施設の利用者数
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の分別方法に従い、びん、かん、ペットボトル等は、資源として分別回収を行う計画とする。 ・ 施設等の稼働に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針も踏まえ、事業系廃棄物の分別回収等、廃棄物の循環利用を進める。 ・ 施設等の持続的稼働において、産業廃棄物が発生した場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び東京都廃棄物条例に基づき、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。 ・ イベントの開催時において発生する廃棄物については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、各事業者が“事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理”する必要があるため、大会やイベントの開催事業者への十分な周知を行い、開催事業者が処理・処分を行うように調整する。

8.8.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

8.8.3 調査手法

調査手法は、表 8.8-2 に示すとおりである。

表8.8-2 調査手法

調査事項		設備等の持続的稼働に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
調査時点		施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とした。
調査期間	予測した事項	2019年7月～2020年6月とした。
	予測条件の状況	2019年7月～2020年6月とした。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地とした。
	予測条件の状況	計画地とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とした。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.8.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 施設等の持続的稼働に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等

2019年7月～2020年6月の廃棄物の発生量等は、表8.8-3に示すとおりであり、1人あたりの発生量は、約88g/人であった。

発生した廃棄物は、可燃物、不燃物のそれぞれの保管場所を設置し、東京都廃棄物条例、品川区廃棄物の処理および再利用に関する条例及び大田区廃棄物の減量及び適正処理に関する条例に基づき適切に処理・処分を行い、再利用量・再資源化率は、約17%であった。

廃棄物の処理・処分方法は、表8.8-4に示すとおりであり、廃棄物の種類別の収集間隔や収集作業を考慮し、ごみ集積所は必要かつ十分なスペースの確保を行っている。

表8.8-3 廃棄物の発生量及び再利用量・再資源化量

項目		単位	数量			
			発生量	再利用量・再資源化量	再利用・再資源化率	
利用者数		人/日	約316	—	—	
1人当たりの発生量		g/人	約88	—	—	
廃棄物 発生量	(合計)	kg/日	約28	約5	約17%	
	可燃ごみ	kg/日	約23	0	0%	
	不燃ごみ	kg/日	—	—	—	
	資源ごみ	紙類	kg/日	—	—	—
		缶	kg/日	—	—	—
		瓶	kg/日	—	—	—
		ペットボトル	kg/日	約5	約5	100%
(小計)	kg/日	約5	約5	100%		

表8.8-4 廃棄物の処理・処分方法等

- ・古紙類やびん・缶などリサイクルできる品目については、分別回収。
- ・保管場所では、廃棄物の品目に応じた区分をして保管。

2) 予測条件の状況

ア. 施設の利用者数

施設の利用者の状況は、約316人/日であった。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.8-5(1)及び(2)に示すとおりである。なお、廃棄物に関する問合せはなかった。

表 8.8-5(1) ミティゲーションの実施状況

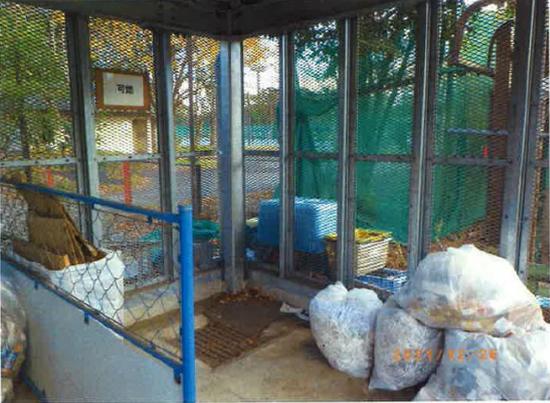
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・区の分別方法に従い、びん、かん、ペットボトル等は、資源として分別回収を行う計画とする。
実施状況	品川区及び大田区の分別方法に従い、廃棄物の分別を行っている。
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>分別種別名を表示したごみ箱</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>廃棄物の保管スペース</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>廃棄物の分別（可燃ごみ）</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>廃棄物の分別（ペットボトル）</p> </div> </div>	

表 8.8-5(2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	・施設等の稼働に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針も踏まえ、事業系廃棄物の分別回収等、廃棄物の循環利用を進める。
実施状況	施設の稼働に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針も踏まえ、事業系廃棄物についても分別を行い、段ボール等の再資源化を行うことにより、循環利用に取り組んでいる。
ミティゲーション	・施設等の持続的稼働において、産業廃棄物が発生した場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び東京都廃棄物条例に基づき、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。
実施状況	産業廃棄物については、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況をマニフェストにより確認している。
ミティゲーション	・イベントの開催時において発生する廃棄物については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、各事業者が“事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理”する必要があるため、大会やイベントの開催事業者への十分な周知を行い、開催事業者が処理・処分を行うように調整する。
実施状況	イベント開催時に発生した廃棄物は、開催事業者の責任において処理・処分するよう指導している。

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 施設等の持続的稼働に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等

廃棄物の予測結果とフォローアップ調査結果の比較は、表 8.8-6 に示すとおりである。

2019年7月～2020年6月の廃棄物の発生量は、約28kg/日であり、予測結果に比べて、1/5程度であった。これは、2019年12月～2020年6月まで大会前仮設工事が実施される等により施設の稼働が制限されていたためと考えられる。なお、1人当たりの発生量は約88g/日であり、予測結果である約49g/日を上回った。

また、再利用・再資源化率は、約17%であり、予測結果である22%をやや下回った。

施設の稼働に伴い発生する廃棄物は、分別種別名を記したごみ箱により分別回収し、廃棄物保管スペースで保管したのち適切に処理・処分を行っている。

以上のことから、予測結果と同様に、施設等の持続的稼働に伴う廃棄物は、適正に処理・処分されているものとする。

表 8.8-6 廃棄物の予測結果とフォローアップ調査結果の比較

項目	単位	評価書		フォローアップ調査			
		発生量	再利用・再資源化率	発生量	再利用・再資源化率		
利用者数	人/日	約3,140	—	約316	—		
1人当たりの発生量	g/人	49	—	約88	—		
廃棄物 発生量	(合計)	kg/日	153	22%	約28	約17%	
	可燃ごみ	kg/日	56	0%	約23	0%	
	不燃ごみ	kg/日	64	0%	—	—	
	資源ごみ	紙類	kg/日	3	100%	—	—
		缶	kg/日	12	100%	—	—
		瓶	kg/日	3	100%	—	—
		ペットボトル	kg/日	16	100%	約5	100%
(小計)	kg/日	33	100%	約5	100%		